

（議事要旨）社会資本総合整備計画①

「世界に誇りうる「ビワイチ」の自転車通行空間整備（防災・安全）」の事後評価

●委員

事業効果の発現状況の資料で野洲市や近江八幡市の事例があったが、事業主体に野洲市・近江八幡市が含まれていないのは何故か。

○事務局

事業主体は道路管理者であり、野洲市・近江八幡市のビワイチルートは全て県管理道路のため、県が実施主体となっている。

●委員

利用者アンケートは肯定的意見のみが掲載されているが、否定的意見も対象とすべき。

○事務局

アンケートでは危険箇所や不満意見もいただいているが、今後の改善に活かす。

●委員

ビワイチ利用者数について、コロナ禍の影響があり、現在の自転車活用推進計画では令和8年度に11万人を目標としているとの説明があったが、令和5年・6年に11万人を超えており、今後も同程度で推移する見込みということか。

また、11万人のうち何人ぐらいが一周しているのか。ビワイチなので一周している人が増えるのが良いと考えるが、県はどのように考えているのか。

○事務局

目標値11万人は、コロナ禍中の令和5年に策定した第2次自転車活用推進計画によるもの。来年度に次期計画の策定を予定しており、現況を踏まえて新たな目標値を設定したい。

また、利用者数は、県内3箇所にあるカウントセンサーとビワイチサイクリングナビアプリのビッグデータから、一周した人数を推計したもの。ビワイチ推進条例では、琵琶湖を一周するだけでなく、琵琶湖の一部を自転車で周遊すればビワイチと定義しており、県としては、一周していただくことがもちろん良いが、内陸部も含めて観光いただくことで、地域の活性化につなげていきたいと考えている。なお、ビワイチ利用者で宿泊いただける方が増えてきている状況にあり、事業として順調に進んでいると考えている。

●委員

植栽帯を活用して路肩拡幅との説明であったが、植栽帯はどうなったのか。

○事務局

空間的に余裕があるところでは、植栽帯を残している箇所もあるが、写真のように撤去している箇所もある。

●委員

公共事業評価として、マイナスの部分を点検することも大事な側面。環境の先進県として、樹木が伐採されていることについて、精査する必要がある。伐採によって、ストックがどのくらい減って、どう代替するのかということも重要と考える。植栽帯を活用した路肩拡幅により、植栽帯はどうなったのか。

○事務局

意見を踏まえ、今後の整備では、環境配慮の視点でも検討してまいりたい。

●委員

ビワイチ利用者の声だけでなく、沿線住民や歩行者、湖岸緑地のレクリエーション利用者のデメリットの部分の声を教えてほしい。

○事務局

自転車利用者以外からも多くの声をいただいている。例えば、沿線にお住まいの方からは「高速の自転車が危ない」、自動車の運転手からは「車道走行の自転車を追い越せず渋滞する」などの意見をいただいている。これらを解決するためにも、路肩を拡幅した通行帯の整備が必要と考えている。

●委員

ナショナルサイクルルートであるビワイチに期待するところは非常に大きいからこそ、弊害となるような緑や周辺住民の部分をケアして、誇れるものになるよう取り組みを進めていってほしい。

●委員

工事により植栽帯の木が切られている現場を通ったことがあるが、一般の方に、どのような目的で伐採されているか、発信してもらえると良いと感じた。

また、大型車の交通も多い道路で、自転車を追い越すときに対向車が怖い思いをすることがある。こうした運転手の声もたくさん聞いてほしい。

●委員

世界に誇るルートが出来つつあることは素晴らしいこと。ソフト施策と連携し、休憩所などの設置にも配慮し、琵琶湖一周が楽しめるように、進めてもらいたい。

●委員

この交付金事業の執行の大半は、県事業ということでよいか。

○事務局

そのとおり。

●委員

来年度に道路交通法が厳格化されるが、通行ルールをしっかりと把握して、自転車通行空間の整備を進めてもらいたい。

●委員

自転車通行帯が残り 62km との説明があったが、今後のスケジュールを教えてほしい。

○事務局

自転車通行帯の整備は、自動車の交通量が一日 1 万台以上の区間を対象としている。今後、国道などのバイパス整備が進むと交通が転換し、整備の必要がなくなる可能性もある。よって、完了時期は明確にお答えできないが、できる限り早期の全線整備に向け、取り組んでまいりたい。

●委員

ビワイチ利用者数を増やしていくには、ソフト面も必要だが、ハード面で、現在の自転車通行帯整備以外で考えていることはあるか。

○事務局

ご指摘のとおり、ソフト面では、11 月 3 日～9 日をビワイチ週間として誘客のイベントを行ったり、自転車を持ち込める「サイクリストにやさしい宿」を増やしていくなど、取組を進めている。ハードについては、整備は引き続き進めている必要があるが、整備後に薄くなった区画線の復旧や段差の解消といった維持管理をしっかりと行っていく必要があると考えている。

以上